

～安比高原の美しい草原景観を維持するために～

平成31年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：安比高原シバ草原の持続可能な草原管理方策検討調査

研究代表者：総合政策学部 教授 渋谷晃太郎

課題提案者：安比高原ふるさと倶楽部

研究メンバー：渋谷 晃太郎

キーワード：半自然草原の再生 保全目標 持続可能な草原管理 環境教育 市民・企業

▼研究の概要（背景・目標）

岩手県八幡平市安比高原の半自然草原は、放牧停止後森林化が急速に進み、草地面積が減少している。安比高原ふるさと倶楽部はこの半自然草原を再生するため刈り払いなどの管理を行ってきた。しかしながら、全体的な保全管理計画がないまま事業が実施されており、長期的な目標を踏まえた計画的な維持管理を行う必要があることが課題であった。また、地域の人口減少と高齢化により、草原管理の担い手の確保が大きな課題となっている。これらの課題を解決するため、安比高原の持続可能な草原管理のための長期的な目標、実施計画を策定することとした。

▼研究の内容（方法・経過）

- 1) 安比草原の再生・維持のための長期的な保全管理目標の検討
・文献調査により安比高原の草原再生・維持の方向性を確認するとともに、長期的な保全管理目標を検討する
- 2) 安比草原の事業実施計画の検討
上記保全管理目標を達成するための具体的な事業実施計画を策定する。
- 3) 安比草原の持続的な維持管理のための担い手確保方策の検討
上記維持管理計画を実装するために必要な担い手の確保方策について各地で行われている事例を収集し安比草原の管理に適した方策を検討する。

▼研究の成果（結論・考察）

- 1) 安比草原の再生・維持のための長期的な保全管理目標の検討
・文献調査により安比高原の草原再生・維持の方向性を確認した。

◎長期的な保全目標としては、「安比高原の半自然草原は、千年もの長い間続いてきた草原であることが最近の研究からわかってきた。その半自然草原は、他の地域より遅く1985年頃に短角牛の放牧が休止されるまで半自然草原と人の暮らしが繋がっていたが、その後はこの関係が断ち切られてしまっている。この時代に戻ることはできないが、改めて先人の知恵と技術に学び、今の時代に適合するあらたな仕組みを創り出すことで、半自然草原環境の再生を目指す。」とし、保全のテーマを「草原のめぐみを持続的に活かす仕組みを現代に合わせて創出し、かけがえのない安比高原の半自然草原を未来に引き継ぐ」とした。

次に、保全地区別の目指す姿（管理目標）と管理方針を中のまきば、焼野のまきば、奥のまきば毎に定めた。

- 2) 安比草原の事業実施計画の検討
上記保全管理目標を達成するため、2020年度の具体的な事業実施計画を策定した。また、今後毎年策定し計画的な管理を行うこととした。



中のまきば 放牧

希少種オキナグサ

- 3) 安比草原の持続的な維持管理のための担い手確保方策の検討

安比草原の持続的な維持管理のための人材確保方策について、八幡平市の地域おこし協力隊員からSNS等を活用して、都市の若者集客技術についてヒアリングを行うとともに、第1段階としてふるさと倶楽部の活動を若者向けにPRするためのHPを作成した。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

現在、本研究によって作成した基本目標等を「安比高原半自然再生基本構想」として取りまとめ、安比高原ふるさと倶楽部に提示した。倶楽部内部の合意形成の後、関係機関との協議を行い、ふるさと倶楽部としての長期目標として確定する見込みである。また、2020年度の事業実施計画については、折からのコロナ禍の影響でスタートが遅れる見込みではあるが、計画に沿って事業が行われる予定である。今後は毎年事業計画を策定し、計画的な管理が行われる予定となっている。